

# 若い3人が戦争と平和について議論

## 「平和のための戦争展2018」にて

14日の「平和のための戦争展」で若い3人が戦争と平和についてディスカッション(討論)しました。

3人は八百屋の土田竜吾さん、大学生の馬場ゆきさん、憲法カフェの田中篤子弁護士です。

馬場さんは、東京の「未来の公共」で活動している学生さん。1少なくても自分が生きていく間に戦争にすることはならないと思ってる。「若者の現状は、失敗したらあとがない状況となっている。日常でかかえる問題を解決することが平和につながる」と思っている。来年の参院選は大事だ」と語りました。

土田さんは、「私は柿崎病院で生まれた。25歳くらいまでは普通のサラリーマンだった。八百屋をやる頃から食の安全とか社会問題を考えるようになった。先日、2週間、沖縄に行ってきた。戦争の傷跡が一番残っているのが沖縄だ。とても平和国家だとは言えない現実が沖縄にある」とのべました。



田中さんは、「弁護士40%、育児60%くらいで仕事をしている。弁護士や母親として見ると、考えなきやならないことがいっぱいある。ふだん、毎日、戦争や平和のことを考えているわけではない。何気ない穏やかな日常が大事だ。憲法31条の一人ひとりがかけがえない人間として尊重される、これが重要と思ってる」となどと自分の考えていることを紹介しました。

点のひとつになりました。その中で、「いまの若者の考えの背景には兵糧攻めにあっている現実がある。まともに考えられないのではないかと、自分のことは自分で何とかしろ、事故責任論の押しつけがあって、うつ病を患っている人も多いため、お互いリスプレクトしながらやっていくことが大事」などの発言が続きました。

写真は左から土田竜吾さん、馬場ゆきさん、田中篤子さんです。会場は市民プラザでした。



【自主防災訓練】市内各地で自主防災訓練が行われています。写真は21日に行われた吉川区村屋町内会の訓練の様子です。各戸から20数人が参加し、センターまでの避難に要する時間などを確認していました。対策本部長さんからは、「ケガをしない程度にゆっくり避難を」などの挨拶がありました。



【ヨウシュヤマゴボウ】山ゴボウ科の多年草。漢字で「洋種山牛蒡」と書きます。「洋酒」ではありません。花期は6月～9月。白色ないし薄紅色の花を咲かせます。花言葉は、「野生」「元気」「内縁の妻」。10月23日、吉川区にて撮影。

上越市内の戦没者数		
地域名	総戦没者数	うち太平洋戦争戦没者
合併前上越市	3365	2766
安塚区	416	321
大島区	286	235
浦川原区	241	201
牧区	361	297
柿崎区	701	553
大潟区	320	267
頸城区	351	291
吉川区	417	324
中郷区	207	171
板倉区	523	403
清里区	214	176
三和区	370	307
名立区	281	223
合計	8052	6535

※総戦没者数は戊辰戦争から太平洋戦争までの77年間のデータ。「平和のための戦争展2018」の展示資料により橋爪が作成。

# はしづめ法一の活動レポート

No.1881 2018.10.28

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見たある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第五一九回

### 思いがけない呼びかけ

人間って面白いところがありますね。思いがけない声かけ、それもほんのひと声にもかかわらず、人間を大きく励ますことがあるのですから。

先日の吉川区駅伝大会での出来事です。私は大会会長の高野さん、副会長の小山さんなどとともに審判車に乗せてもらい、レースを見守りました。

各チームの選手のみなさんが3区を走っている時でした。審判車が先頭のランナーを追い抜き、天林寺地内にある4区との中継点に近づいたとき、友人のバリさんがお連れ合いとともに自分の家の入り口付近に出ている姿が目に入りました。

各選手のタスキのつなぎを確認するために中継所付近で車を降りた私は、急いでバリさんのところに向かいました。わざわざ出て、応援してくれている彼に「元氣かね」と声をかけたかったからです。

バリさん夫婦がいる場所まであと二〇分くらいで着く、そんなタイミングで、駅伝のレースが行われていることを案内して走っている広報車の拡声器から、突然、「バリさん、おはようございます」という声が聞こえてきました。これにはびっくりしましたね。

マイクで呼びかけたのは広報車のアナウンサーを務めたアツコさんでした。

バリさんに会ってすぐ、「声をかけても良かったね」と言うと、「いやー、おれもびっくりした」と言いました。バリさんの顔を見ると、眉毛は完全に「への字」になっていました。よほどうれしかったのでしょうか。バリさんは、「吉川町走ろう会」という名前が入った水色のジャンパーを着て応援に出ていたのですが、そのジャンパーまでニコニコしているように見えました。

もちろん、私もうれしかった。普通、広報車が特定の人に「〇〇さん」と呼びかけたり、挨拶したりすることはありません。でも、アツコさんの「バリさん、おはようございます」にはまったく違和感がありませんでした。その言葉には「応援に出てくれてありがとう」という意味合いが含まれていて、近くにいた駅伝関係者の気持ちを代弁した呼びかけとなっていたのです。

たぶん、アツコさんもバリさんがかつて駅伝ランナーだったことを知っていたのだと思います。そして十数年前にバリさんが大病して、二度と走れなくなったことも。そのバリさんが大好きな駅伝のレースを見るために今回も道路の近くまで出て見ている、その様子がうれしかったのではないのでしょうか。

5区の中継所付近で広報車と出会ったので私は、アナウンサーをやっていたアツコさんに、「バリさん、喜んでいましたよ」と声をかけました。感謝の気持ちを伝えたいからです。アツコさんは、「つい、声をかけちゃって……」と申し訳なさそうな顔をしていましたが、責められるようなことではありません。

バリさんは国体のスキー選手となったシヨウイチさんやスキークラブのトシオさんなどとともに吉川町時代、「走ろう会」を結成したメンバーの一人です。いうまでもなく、駅伝の常連でした。来年の大会でもまた応援してくれるに違いありません。

吉川区の駅伝大会は小さな大会ですが、これまでも私は、1区か2区を走っていた選手がレースの後半の交通整理員をしていたことなど、心を揺さぶられた出来事をいくつも見てきました。アツコさんのバリさんへの呼びかけで感動のエピソードがまた一つ増えました。

## 「いっせい防災訓練」の参加率55%に驚き



### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。  
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月17日(水)	10月24日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.070	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.053

市議会災害対策特別委員会は17日、茨城県水戸市で「いっせい防災訓練」などについて研修させていただきました。

同市では、東日本大震災を風化させてはならないと防災対策を強化しています。全国から注目されているのは、人口約27万人の同市が取り組んでいる「いっせい防災訓練」に15万人もの市民が参加していることです。この参加率は全国の市町村ではトップです。

当日は、対策の最前線で頑張る小林危機管理室長(写真)から説明していただきました。そのなかで小林室長は、まずは自分の身を守ること、を何度も繰り返しました。訓練に参加する市民を増やすために、ピラを配るだけでなく、危機管理室の職員が会社などに出向いて直接訴えているのには驚きました。

津波、土砂災害ハザードマップの改訂作業では、市民に作業段階から参加してもらうことを重視し、この

マップの中でマイタイムライン(自分自身の防災行動計画)を書き込みできるようにしているとのことでした。また、「自分だけは大丈夫」という先入観から抜け出すためにも「口を酸っぱくして」身近な危険の存在などについて訴えていると言います。参考になりました。

休憩時には、体重200キロの人も使えるというダンボール製の簡易トイレ、毛布3枚分の保温効果があるシート(100円ショップでも買えるとか)、避難所でプライバシーを守るテント(1基2万円)なども見せてもらいました。



# 春よ来い

## 第五一九回 思いがけない呼びかけ

人間って面白いところがありますね。思いがけない声かけ、それもほんのひと声にもかかわらず、人間を大きく励ますことがあるのですから。

先日の吉川区駅伝大会での出来事です。私は大会会長の高野さん、副会長の小山さんなどとともに審判車に乗せてもらい、レースを見守りました。

各チームの選手のみなさんが3区を走っている時でした。審判車が先頭のランナーを追い抜き、天林寺地内にある4区との中継点に近づいたとき、友人のバリさんがお連れ合いとともに自分の家の入り口付近に出ている姿が目に入りました。

各選手のタスキのつなぎを確認するために中継所付近で車を降りた私は、急いでバリさんのところに向かいました。わざわざ出て、応援してくれている彼に「元氣かね」と声をかけたかったからです。

バリさん夫婦がいる場所まであと二〇分くらいで着く、そんなタイミングで、駅伝のレースが行われていることを案内して走っている広報車の拡声器から、突然、「バリさん、おはようございます」という声が聞こえてきました。これにはびっくりしましたね。

マイクで呼びかけたのは広報車のアナウンサーを務めたアツコさんでした。

バリさんに会ってすぐ、「声をかけても良かったね」と言うのと、「いやー、おれもびっくりした」と言いました。バリさんの顔を見ると、眉毛は完全に「への字」になっていました。よほどうれしかったのでしょうか。バリさんは、「吉川町走ろう会」という名前が入った水色のジャンパーを着て応援に出ていたのですが、そのジャンパーまでニコニコしているように見えました。

もちろん、私もうれしかった。普通、広報車が特定の人に「〇〇さん」と呼びかけたり、挨拶したりすることはありません。でも、アツコさんの「バリさん、おはようございます」にはまったく違和感がありませんでした。その言葉には「応援に出てくれてありがとう」という意味合いが含まれていて、近くにいた駅伝関係者の気持ちを代弁した呼びかけとなっていたのです。

たぶん、アツコさんもバリさんがかつて駅伝ランナーだったことを知っていたのだと思います。そして十数年前にバリさんが大病して、二度と走れなくなったことも。そのバリさんが大好きな駅伝のレースを見るために今回も道路の近くまで出て見ている、その様子がうれしかったのではないのでしょうか。

5区の中継所付近で広報車と出会ったので私は、アナウンサーをやっていたアツコさんに、「バリさん、喜んでいましたよ」と声をかけました。感謝の気持ちを伝えたかったからです。アツコさんは、「つい、声をかけちゃって……」と申し訳なさそうな顔をしていましたが、責められるようなことではありません。

バリさんは国体のスキー選手となったシヨウイチさんやスキークラブのトシオさんなどととも吉川町時代、「走ろう会」を結成したメンバーの一人です。いうまでもなく、駅伝の常連でした。来年の大会でもまた応援してくれるに違いありません。

吉川区の駅伝大会は小さな大会ですが、これまでも私は、1区か2区を走っていた選手がレースの後半の交通整理員をしていたことなど、心を揺さぶられた出来事をいくつも見てきました。アツコさんのバリさんへの呼びかけで感動のエピソードがまた一つ増えました。

## 第14回大島音楽祭、今年も元気に楽しく



### 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。  
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	10月17日(水)	10月24日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.070	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.053

21日の午後、第14回大島音楽祭に出かけてきました。

遠方からおいでいただいたという、田邊英夫・轟さんによるダンス、初めてみせてもらいました。ジプシーの踊り、よかったです。高齢者合唱団「りんどう・ほたる合唱団」など大島区のすべての音楽集団が参加し、浦川原の合唱団も応援に。これぞ、「音楽のふるさと」という感じでした。大島中学の全校生徒14人が歌った「チェリー」、久しぶりに聴き、ジーンとききました。最後は「蛍の里」の全員合唱でした。素敵な2時間半を過ごさせてもら



ました。  
会場では大島区民の見事な絵画や写真などが展示されていました。上の作品はデザイナーの人たちの「富嶽36景」です。上手ですね。

# 春よ来い

## 第五一九回 思いがけない呼びかけ

人間って面白いところがありますね。思いがけない声かけ、それもほんのひと声にもかかわらず、人間を大きく励ますことがあるのですから。

先日の吉川区駅伝大会での出来事です。私は大会会長の高野さん、副会長の小山さんなどとともに審判車に乗せてもらい、レースを見守りました。

各チームの選手のみなさんが3区を走っている時でした。審判車が先頭のランナーを追い抜き、天林寺地内にある4区との中継点に近づいたとき、友人のバリさんがお連れ合いとともに自分の家の入り口付近に出ている姿が目に入りました。

各選手のタスキのつなぎを確認するために中継所付近で車を降りた私は、急いでバリさんのところに向かいました。わざわざ出て、応援してくれている彼に「元氣かね」と声をかけたかったからです。

バリさん夫婦がいる場所まであと二〇メートルくらいで着く、そんなタイミングで、駅伝のレースが行われていることを案内して走っている広報車の拡声器から、突然、「バリさん、おはようございます」という声が聞こえてきました。これにはびっくりしましたね。

マイクで呼びかけたのは広報車のアナウンサーを務めたアツコさんでした。

バリさんに会ってすぐ、「声をかけても良かったね」と言うのと、「いやー、おれもびっくりした」と言いました。バリさんの顔を見ると、眉毛は完全に「への字」になっていました。よほどうれしかったのでしょうかね。バリさんは、「吉川町走ろう会」という名前が入った水色のジャンパーを着て応援に出ていたのですが、そのジャンパーまでニコニコしているように見えました。

もちろん、私もうれしかった。普通、広報車が特定の人に「〇〇さん」と呼びかけたり、挨拶したりすることはありません。でも、アツコさんの「バリさん、おはようございます」にはまったく違和感がありませんでした。その言葉には「応援に出てくれてありがとう」という意味合いが含まれていて、近くにいた駅伝関係者の気持ちを代弁した呼びかけとなっていたのです。

たぶん、アツコさんもバリさんがかつて駅伝ランナーだったことを知っていたのだと思います。そして十数年前にバリさんが大病して、二度と走れなくなったことも。そのバリさんが大好きな駅伝のレースを見るために今回も道路の近くまで出て見ている、その様子がうれしかったのではないのでしょうか。

5区の中継所付近で広報車と出会ったので私は、アナウンサーをやっていたアツコさんに、「バリさん、喜んでいましたよ」と声をかけました。感謝の気持ちを伝えたいからです。アツコさんは、「つい、声をかけちゃって……」と申し訳なさそうな顔をしていましたが、責められるようなことではありません。

バリさんは国体のスキー選手となったシヨウイチさんやスキークラブのトシオさんなどとともに吉川町時代、「走ろう会」を結成したメンバーの一人です。いうまでもなく、駅伝の常連でした。来年の大会でもまた応援してくれるに違いありません。

吉川区の駅伝大会は小さな大会ですが、これまでも私は、1区か2区を走っていた選手がレースの後半の交通整理員をしていたことなど、心を揺さぶられた出来事をいくつも見てきました。アツコさんのバリさんへの呼びかけで感動のエピソードがまた一つ増えました。

## 児童も保護者も音楽の世界を楽しむ

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	10月17日(水)	10月24日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.070	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.053

20日は吉川小学校文化祭でした。私は10時過ぎからの音楽発表会に参加しました。毎年、楽しみにしている行事のひとつです。

グラウンドを走るのが大好きという1年生の20人、「ピーク・ピーク・ピーク」は小鳥たちのようでした。「スマイル学年」の5年生の合奏は「エル・クンパンチェロ」、私の大好きな曲です。力強く演奏してくれました。これを聴くと、私はどんどん前に進んじゃう。2年生の「アイアイ」もよかった。歌や音の追いかけてはみんな大好きですね。

発表会で挨拶した校長の池田先生、今回も自分が描いた絵を片手に話をされました。最後に歌う全員合唱の「もみじ」をイメージして、ステージで踊る子どもの衣装に「もみ



じ」の歌詞の世界を描いたとか。先生は最後に、「美しいものを美しいと思える あなたの心が美しい」という相田みつをの詩を紹介されました。いい詩です。